



d e s i g n s t o r i e s

[HOME](#)[PANORAMA
STORIES](#)[JINSEI
STORIES](#)[WORLD FOOD
STORIES](#)[THE
INTERVIEWS](#)[OTHER
STORIES](#)[WRITERS](#)

THE INTERVIEWS

Chim↑Pom エリイが見る世界

Posted on 2017/08/12

辻 仁成 作家 パリ

日本現代アートの世界で異彩を放つChim↑Pom (卯城竜太・林靖高・エリイ・岡田将孝・稻岡求・水野俊紀が、2005年に東京で結成したアーティスト集団)。

若い世代に圧倒的な存在感を提示する彼らは現代アートにおけるパンクロックだ。日本よりも、海外での期待や評価の高い彼らと、10年近い交流がある私は、ここに来て、ますます彼らのメッセージと熱量が日本のアート界のみならず我々の未来に対しても重要であることに確信してきた。

このアート集団の紅一点エリイの、その天然キャラの裏側に隠された骨太の意思をこの対談から読み取ってもらいたい。日本にも、面白い連中がまだこんなにいるのだ、と気づかされる。



辻 エリイってカリスマ性がすごくあるじゃない。だから、勘違いしちゃって、映画「Paris Tokyo Paysage」にワンシーン超簡単な役で出てもらったことあったよね？でも、撮影になると、30回くらいNGの連続（笑）。ごめんね。カメラ向けると君、ブロック入っちゃってさ、お芝居まったくダメだった（笑）。

エリイ カメラの前に立つと魂が取られる気がするんだよ。

辻 普段はすごいチャーミングなのに、カメラ向けると別人になる。絶対、映画俳優に向かないタイプだね（笑）。

エリイ カメラはね、Chim↑Pomのアート作品の撮影の時のみ素が出せて他では一度も出せたことない。メンバーにも、「私の良さがメディアだと全然伝わんない」とか、「超もったいないね、本当のエリイを知らない人がいるなんて」って言われる。

辻 それって、人から見られてるっていう、なんか緊張感が出てしまうのかな？ バリアーができちゃうみたいにさ。

エリイ たぶん。知らない人たちに向けてだから、そうなるんじゃないかな。

辻 知ってる人だったら心開けるのに、ってことかな。人見知りなんだね。すごい硬い感じになってた。でも、あれはあれで面白かったよ。

エリイ 私は○○○です。ええ。とか言って（笑）。

辻でも、役者じゃないし、モデルでもない、アーティストだからそれは全然関係ないけどね。エリイと初めて会った

のは、青山だったかな。知り合いの紹介で、ふいに大人の集まりに顔出して、「どうも～」って軽さで（笑）。「なんだこの小娘」って思ったのが第一印象でした（笑）。しかし、今やChim↑Pomはすごい勢い。世界各国で大活躍しているよね、この前はギリシャだったかな。

エリイ いやあ、そんなことないですよ。そう、前回はギリシャ。アテネに行ってました。1回下見で「アバンドンホテル（廃墟ホテル）」を探しに行ったの。そこから何軒か回って、一旦日本に帰ってからまたアテネに行って2週間制作してからオープン。でも、私、オープニングとプレスツアー寝坊しちゃって（笑）。どうも、作品の展示がすむと満足しちゃうふしがある。もちろんプレスツアーでちゃんと交流して発表するのが今後に繋がるっていうのもわかつてんんだけどね。その後、夫がやってきて、2週間くらいヴァカンスして帰ってきました。

辻とにかく、僕の中ではChim↑Pomとエリイは常に海外にアクセスするアーティスト集団、世界の隅々に日本の現代アートを届けてるって印象なんだけど。

エリイ うーん、日本だとね、あんまり仕事ないんだよね。ほら、名前が名前だしさ。変な人たちだと思われてて。危ない！ みたいな。まず、企業からは絶対オファーこないし。

辻まあ、危ない…よね（笑）。

エリイ そんなことないけどなあ。

辻たしかに、企業からの仕事依頼は来ないかもしれないね。実は、僕も企業の人たちに君たちとの仕事を提案したことがあるんだよ。「僕はChim↑Pomと仲いいんですよ」って大きい声で言ったら、企業のお偉いさんたちが全員「シーッン」てなった。「あの、すいません、何て言われました？」って聞き直すから「Chim↑Pomです」ってもう1回言ったんだけど、彼らはその段階で100%駄目だった（笑）。

エリイ そうそう。たまに企業務めの燃えたぎるすごい若い子が企画書出してくれて、通りました。とか言うんだけど、その後、絶対に落ちる。プランと一緒に考えようかとか、こういうの出したいんですけどって言っても、絶対に通らない。

辻 そうなんだ。Chim↑Pomっていう名前だけど、最初、僕もエリイに「なんでそんな名前にしたの？」って聞いたよね？ そしたら、「恥ずかしくて普通の人が言えないじゃないですか。女の人がチンポムって言ったらその瞬間にみんなクスクスってなる。それが面白くてつけた」みたいなこと言ったよね。

エリイ あとね、日本の響きっぽいってのもある。響きがジャパニーズポップっぽいじゃん。「Chim↑Pom」ってたぶん、日本にしかないの。スペイン語っぽいけど、真ん中に↑もついてるし、"ジャパニーズ"だと思うの。私はめっちゃ最初にそれを考えた。

辻 ↑はあれはどういう意味なの？

エリイ 道路の交通標識とか、空港とか、駅とか見た時に、矢印がめっちゃあるじゃん。その矢印を見た時に、ChimとPomが無いなって思う日がいつかやってくる。っていう。そう思ってつけた。↑を見たら、もうChim↑Pom。あとアゲ！ アゲっぱなし！ やっぱ一度の人生、完璧にアゲて行きたいじゃん。

辻 全然、理解できないんですけど（笑）。なるほど、そういう狙いで、そういう感覚でね。僕が出会った頃も今も、常に新しいチャレンジをしているよね。全部は見て無いけど、ギリシャのアテネもそうだし、常に、世界各国で活動してる。どういうところで取り上げられたりするの？ 例えば、ギリシャはどこから話が来たの？



エリイ ギリシャは、まず「Don't Follow the Wind」っていう展覧会をやっていて、それは福島の帰還困難区域内での展覧会で、今もやり続けているんだけど。帰還困難区域内に何個か日本や海外の作家の作品を置かせてもらってるの。Chim↑Pomが発起人で他に日本と海外のキュレーターを立てていて。アメリカ人と日本人とイタリア出身でニューヨークで活動している夫婦。その人たちと話し合ってアーティストと一緒に選んで、会議して、作品を設置してる。ただ、帰還困難区域が解かれる時までその作品を見ることができないの。もちろん、地元に帰れる人はたまたま見れたりするかもしれないけど。

辻 このプロジェクトの発想が本当に君たちらしいね。金儲けだけ考えているアートの人たちに君たちの取り組みの深さをちょっとでも学んでもらいたいな。ところで、帰還困難区域って、設置する時は入っていいわけ？

エリイ 設置する時は地元の人の協力や、市の協力があって。

辻 それはすごい。地元の協力ってのが素晴らしい。

エリイ そう。すっごくいい街の人たちで、いっぱい話し合って、うまくいかないこともあるけど、超協力してくれる人もいるし。感動的だなと思ったのは、市の役人の人たちが、「こうやってこの場所を使ってもらうことによって、100年、200年後の資料に残って、この街が存ったんだっていう証明になる。そうなったらいいな」と言ってくれたこと。だって、消滅しちゃう可能性もあるからね。たぶん、震災前に市のおじさんたちはそういうことは考えてもみなかつたことだと思う。普通に生活してたら100年後や200年後のことなんてあまり考える機会ないのかな。震災を経たからこそ、物事を自分のこととして見れるし、そういう考えができるようになったと思うんだよね。日本人ってみんな、絵を見るのも好きだし、マスコットとか超好きだし、面白いことも好きだし、本当は潜在的に美に対する鋭い感覚を持っていると思うんだけど、やっぱり島国だからか、みんなが一緒じゃなきゃ嫌だってどこが

あって。そういう意味では、現代アートは今の時代には向いて無かったのかなって思う。今まではね。去年は歌舞伎町で展覧会やったんだけど、その時は歌舞伎町の振興組合のおじさんたちに協力してもらって、これから取り壊されるっていうビルを丸ごと使って展覧会をさせてもらったの。大成功だったんだけど。

辻 それも、無くなってしまうものに対して今、アクションを起こすことなんだね。

エリイ うん、もう無くなった。

辻 一般的にいう「芸術」ってのはさ、例えば、ピカソの絵が何百年残りますっていう感じだったりする。だけど、Chim↑Pomの芸術って、全部その瞬間に消え失せ、壊れるよね。どれも残らない。

エリイ 全部ではないけどね。売るものがあまりない。本当に困る（笑）。でも中途半端に売れそうで手ごろな物体を作つて自分を消費したくない。納得出来ればいいんだけどね。心にハマったり、これやりたい！って言う前向きな気持が何よりも大切。

辻 貧しい芸術家集団だよね。メンバー6人もいてね。どうすんの？でも、僕はかっこいいと思ったんだよ。なぜかというと、残らないものに対して一生懸命それを伝えようと芸術活動してるっていうこと自体リスペクトする。「これが芸術だな」って思った。全部が豪華な額縁に入った絵画みたいになつても仕方ないし。新しい概念の芸術が必要だった。





エリイ そう、その「Don't Follow the Wind」という展覧会を日本でやってて、そのサテライト展としていろんな国に呼んでもらって、後でも話すけどChim↑Pom独自の作品でもともと震災後に作った作品も世界中で展示されてて、それでお互いの作品が高まり合ってるのかな。その一環でアテネがあったわけ。アテネも経済危機とか難民がすごく多かったりして、帰りたいけど帰れない難民の人たちが占拠してるところへ行ってその人たちにも会ったんだけど。アテネで私が見つけた何個かのホテルは、もう2010年10月でカレンダーが止まってて、部屋にも朝食会場にもお皿や食べかけのものが並べられたまま、新聞もその日のまま。その、2010年10月に何かがあって、倒産してそのまま出て行ったんだよね。

辻 それがアバンドンホテル。フランス語でアバンドンって意味わかる？

エリイ え、どんな意味？

辻 「Abandoner（アバンドネ）」という動詞があって、物ごとを諦めるとか、放棄することを意味するの。

エリイ アバンドネ、へー、面白いね。英語に似てるんだね。打ち捨てられたってことね。

辻 そこでは何をやったの？

エリイ そのホテルを丸ごと使って、「Don't Follow the Wind」のアーティストたちの作品を一つ一つの部屋に設置していくの。Chim↑Pomは番号が311の部屋を使ったんだけど、鍵が開かない。ドアも。ホテルの部屋のインターホンを押すと、それが福島の帰還困難区域内のお家に繋がるの。それで、その家で鳴ったインターホンが、アテネの311の部屋へ帰ってくる。そのシステムを作るのが超大変だったんだけど、それはもちろん、専門の人に協力してもらって。

辻 中の展示物はないんだ。

エリイ 無い。ピンポンだけ。

辻 その説明は書いたんだね？ やっぱり。

エリイ そこには書いてないけど、チラシみたいなのに書いてあったり、シンポジウムやったりはした。他にも震災で一家がばらばらになってしまった福島の女の子にも来てもらって、アテネの若者とアテネに流れ着いた難民の人と3人でそのホテルの締め切った食堂でそれぞれの国の食べ物を持ち寄ってもらって食べながら会話して、最後に3人で決めた言葉を埃がかぶったテーブルに指でかいてもらって。日本はほんとに極東でヨーロッパからすごく遠いし、日本の場所がどこか知らない人もたくさん。でも地球上で一緒に生きてるわけで、向こうのことを知りたいし、こちらのことも伝えたい。話を戻すけど、ギリシャの人たちには伝わった。日本だとそこに書いてないとわかんないと思うけど、向こうの人たちはそういう展覧会に慣れてるじゃない。だから、そういうのを「読み取る力」ってのがある。アテネの人たちの読み取る力、すごく。さすが哲学者とギリシャ神話を生んだ国だよね。オリンピックもそうだし英語のもとになる文字もそう。何と現代アート発祥の地ともいわれてる。私、アテネの街中で飲んでて、可愛い女の子と友達になったの。今でもずっと毎日メールしてるんだけど、超ポエティックなの。メールとかも、「私たちは同じ地球にいるのに全然違う惑星にいるみたいだね」とか来るし。

辻 英語でやり取りしてるの？ エリイ、英語喋れるの？

エリイ 嘿れない。嘿れないけど毎晩飲んでたし、何もわかってないと思うんだけど（笑）。

辻 エリイは感覚でわかっちゃうんだろうな。わかる（笑）。

エリイ いや、わかんないと思うけどね。でもさ、言葉もわかんないのに毎晩付き合ってもらってさ。優しいよね、地球の人って。

辻 エリイにとって、福島での出来事、3・1・1ってもちろん悲しくて辛い出来事だけど、アーティストとしてそこからいろいろなものを拾っては、常に発信することになったよね。気合い100連発（※）とか。

※気合い100連発・・・被災地で瓦礫撤去をする若者たちとChim↑Pomのメンバーが円陣を組んで思い思いに100の言葉を叫び、その模様を映像として収録した作品。

エリイ うん、なったよね。気合い100連発も世界中で結構展示されてて、MOMAのPS1とかでも展覧会された。でも、私は3・1・1前に戻りたいけどね。個人の感想としては。

辻 今度の個展は？

エリイ 今やってる「道は拓ける」（～8月27日（日）＊毎週水曜日休み 営業時間：14:00～20:00 道の通行は24時間解放）は7月29日がオープニングで、超いいオープニングだった。超いい空間になって、言葉では言い表しがたいけど。あれは何でやったかというと、去年、歌舞伎町でやった展覧会に置いた作品を、ビルを解体するときに全部一緒に壊してもらったの。作品ごと。その破片を解体が終わった後に集めて、今回、高円寺で再構築して使ったの。それで、渋谷のパルコもちょうど取り壊しから、パルコの搬送用のドアを使ったりとか、パルコの甲板のPとCもそうだし。

辻 結構広い会場なの？

エリイ いや、狭い。戦前戦後あたりからあると言われててブラックみたいな感じで、もともと地下は宗教施設だったり、ちょっといわく付きの場所だった。その建物内、プライベートな空間の中に道路を作ったわけ。それは24時間解放されていて、プライベートがパブリックになるっていう。

辻 その道の部分はいつでも見れるの？

エリイ 見れるし、通れる。

辻 どんどん失われていく「今」という瞬間というものを、どうしてもそこに留めることができないから「芸術」が生まれたんだと思う。絵画とか彫刻っていうね。それが今までの芸術の手法だったと思うんだけど、Chim↑Pomっていうのは、それが失われる前というか、後というか、その一瞬にアクセスしようとするような、今までの芸術と逆行するような形のやり方をしてるよね。気合100連発にしても、アテネのイベント（※）にしても、帰還困難区域の芸術にしても、何かそれがすごくChim↑Pomらしいっていう感じがする。

※アテネのイベント・・・開かないホテルの部屋のドアの呼び鈴を鳴らすと、それが福島の帰還困難区域の家のベルを鳴らす。そこが同期していて、同じ音がアテネのホテルで響き渡るというアート。



「次回、明日、後編へ続く」

posted by 辻 仁成

157

-
- ・海外で働きながら留学したいあなたへ。ここに夢を叶えるための入口があります。
 - ・ワーキングホリデーの仕組み「パンケーキで伝えるワーキングホリデー」
 - ・文化を創る建築家 佐野文彦 「おもしろき こともなき建築を おもしろく」



PANORAMA STORIES

JINSEI STORIES

WORLD FOOD STORIES

THE INTERVIEWS

OTHER STORIES

WRITERS



Web Magazine "Design Stories"に掲載されている記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright DESIGN STORIES INC. All Rights Reserved.



d e s i g n s t o r i e s

[HOME](#)[PANORAMA
STORIES](#)[JINSEI
STORIES](#)[WORLD FOOD
STORIES](#)[THE
INTERVIEWS](#)[OTHER
STORIES](#)[WRITERS](#)

THE INTERVIEWS

「アートって、アティチュードがまじ大事」Chim↑Pom的アート感

Posted on 2017/08/13

辻 仁成 作家 パリ

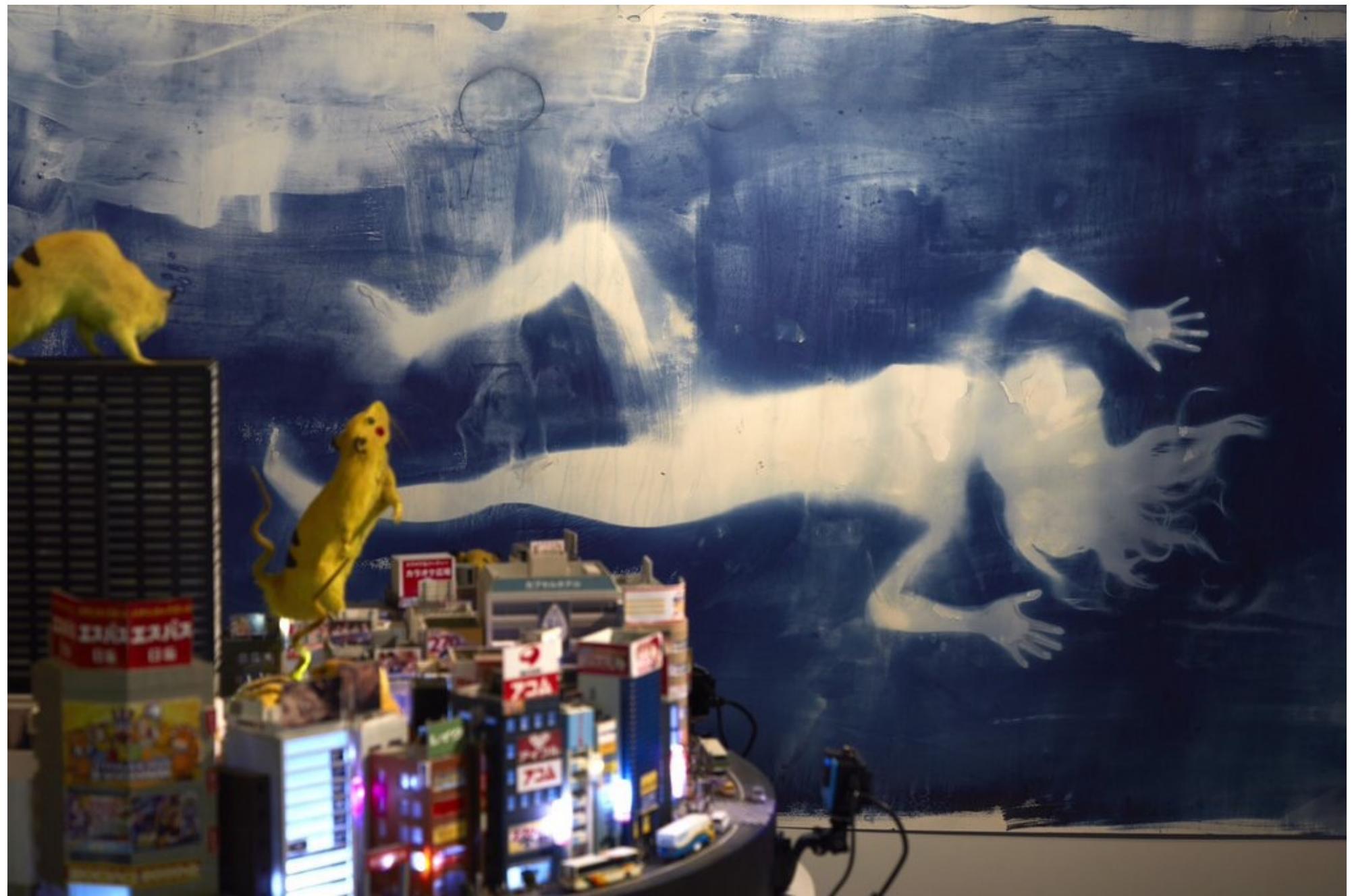
2020年の東京オリンピックへ向けて、スクラップ&ビルトを繰り返す東京、日本。

2016年10月、取り壊しが迫る歌舞伎町商店街振興組合ビルで行われた個展「また明日も観てくれるかな?」の強烈なインパクトは忘れられない。

東京オリンピックの開催へとひた走る日本、一方で福島の復興は果てしない時間を必要としてその先行きはまだ見えない。見えない復興に向けて地道に努力する人々がいる一方で、オリンピック景気に沸く日本。この六人組はスクラ

ップ&ビルドを繰り返す日本にささやかな警鐘を鳴らす。

ザ・インタビュー、本日は、日本のアート界で異彩を放つ六人組アート集団、Chim↑Pomの紅一点、エリイへのインタビュー。



辻 Chim↑Pomのアートって、総称的には現代美術に入るのかな？

エリイ 現代美術だね。

辻 現代美術の新しいカテゴリー。僕は、会田 誠さん（現代美術家）みたいな専門家じゃないからあんまり詳しくは語れないけど。でも、例えば、初めてマルセル・デュシャンの『泉』が世に登場した時、これは芸術ですよって誰かが紹介した。すると人々は、それはただの便器じゃなくて芸術だと認識する。現代アートは、通訳を介して、通常を通常じゃないものに変化させる運動だったりする。もちろん、通訳がいないにこしたことはないのだけど、多くの作品の場合、わかりやすい解説が人々を腑に落とす（笑）。例えば、エリイたちがアテネのホテルでやった展示ね、誰かが311号室のドアベルを鳴らすと、そのベルが誰もいない福島の帰還困難区域の家のドアベルと連動していて、まず、福島の家の玄関でアテネで押したドアベルが鳴る仕組み。それが10000キロを戻って、アテネにもフィードバックされる、というものだけど、君たちが何もそこで解説しなければ、ドアも開かないし、観客はそれをベルの音だけが聞こえる「鍵のかかった部屋」だと思うだけだろうけど、その「鍵」は誰もが持っているものであり、誰もが失っているものだったりするんだ。こういうアートのコンセプトが、アートを、アートにさせたりする。とくに君たちの作品には、強いよね？ このコンセプトが、展示会に訪れたギリシャの人々を日常から異次元へと誘う。君たちは、そういう運動を、すごく実践してる日本の若いアーティストだって気がするんだよね。ところで、リーダーの卯城くんは元気？

エリイ 元気！ 前に京都造形大に講師として辻さんが呼んでくれて京都で楽しく飲んだよね。うちのリーダー（卯城くん）は本当に天才で、彼は本当に「日本が生んだ宝」だと思う。

辻 前はそこまで彼のこと褒めてなかったよね（笑）。

エリイ いや、私がちょっと大人になったの。あれ？ この人もしかして天才なんじゃん？ とか思って。それまで近くにいるから、めっちゃ面白い、超えてく力すごいな、っていう感じだったけど。

辻 なるほどね。でも、確かに、僕ね、いつもエリイを見てるとデボラ・ハリーを思い出すんですよ。ニューヨークのロックバンドブロンディ (Blondie)で、中心にマリリン・モンローみたいな格好の女の人がいる。一世風靡したパンクバンドのセックスシンボルが、デボラ・ハリー。エリイはそのデボラ・ハリーみたいな存在で、Chim↑Pomのある意味、広報担当であり、キャラクターであり、しかし、コンセプターの一人であったり、実は司令塔であったりする。君たちが人気あるのはやっぱりエリイが中心にいるからなんだと思う。それをコントロールしているのが卯城くんだ、と僕は踏んでいる（笑）。

エリイ でもね、卯城くんは誰もコントロールできないからね。エリイだけじゃなく、メンバーの誰のこともコントロールできずに彼は参ってるよ。

辻 確かに、君たちは一人一人すごい個性の塊だものね。あの、林君？ 彼は何者なの？ 頭の中を常に高圧エネルギーが駆けめぐっている感じ（笑）。でも、卯城くんは冷静な感じ。会うたびに成長を感じる。

エリイ えっとねえ。考え方がやっぱり違う。物事を見る角度が違うの。一つの物事を見つけるときに、私が見つける物よりももっと先を見つけてくるし、見つけるのがうまいのかもいしれないね。だからチームでやるのが好きなんだけど、自分一人では行けないところに行けるじゃん？



辻 単独でアートをしたことはない？

エリイ ない。Chim↑Pomのアイデアは全員で考えてるんだけど、思考のミルフィーユみたいな感じかな。誰かが言ったことからヒントを得て作品に近づいてゆく。それってチームゆえの醍醐味なの。一人じゃ見ることができない景色と一緒に見たいし周りにも見せたい。そこに興奮するし私はそういうタイプ。

辻 エリイにはいつも驚かされる。その感覚と、批評眼と、正義感っていうか。人を外見で判断しちゃいけないっていう一番良い例だよね。いつも、なるほどって唸らされる。でも、エリイ、どうしてその喋り方、チンピラ風なの（笑）？

エリイ え、わかんない！ なんで（笑）？ 普通だよ。わかんない。

辻 エリイってさ、そのまま人生をアートの中の伝説で生きてる感じするよね。生きてるのに伝説の人みたいな。「私がアート」みたいななとこあるの？

エリイ 私がアートってとこあるよ。私が世界で一番のアーティストだと思ってるし。けど、喋り方に関しては、まあ、今気づいたけど（笑）。声が低いのは自覚してるよ！

辻 ところで、今、点と点を繋ぐアートって言うのが気になってるって言ってたよね。

エリイ 点と点っていうのは、昔から興味があるんだけど。立体感？ 一つの物事と、一つの物事があって、それが繋がって立体的になっていくのがすごく好きなの。だからさっきも言ったようにチームでやってるというのもあるん

だけど。歌舞伎町のビルの展示の時に、地下にライブハウスを掘って作ってバンド、ミュージシャンや演劇の方に来てもらって、超いい空間が生まれたわけ。アートと音楽の融合っていうか。音が入ることでこんなに空間が変わってくるんだ、とか思って。今までだったらただオープニングやって、展覧会やって終わりだったんだけど。そうやっていろんな人が協力してくれることによって、立体的になるなって、一昨日も思ったんだよね。みんな優しいじゃん。

辻 その、地下を掘るのもメンバーみんなで掘るんだよね？

エリイ そう、みんなで掘る。手伝ってくれる感動的な人もいる。地下はスナックみたいな空間だったんだけど、青焼き（図面）を見たら一階の床に埋まってる階段があって、掘ってみたら本当に階段があったの。部屋があったことは知ってたんだけど、その上の部分はもともと公衆トイレだったみたいで、階段を埋めて商売に使ってて最後に私が見たときはカレー屋さんだったんだけど、他にもいろいろ入ったりしてたみたい。それで、階段掘ってそこから行き来できるようにしたの。



辻 ヘー。なんか楽しそうだね。そういう活動はすごく楽しいと思うんだけど、それでみんなが生活していくの？ お金になるの？ 生きていくの？

エリイ え、いけない（笑）。だから、もう、超ギリギリで。ときどき作品が売れるけど、メンバー二人は私のおばあちゃん家に住んでるし、もうそろそろ自立したいみたいで出していくんだけど。今、「無人島プロダクション」（所属ギャラリー）だけじゃ回らなくなつたから「Chim↑Pomスタジオ」っていうのを作ったの。世界に対応していくためにそれを作つて、アシstantが二人いる。一人はニューヨークで育つて、英語もできるし、いろんなアートシーンも知つていて、Chim↑Pomの作品を好きでいてくれる人。もう一人はムサビの後輩で写真を撮つて。まだ二人ともめっちゃ若いし、超イケてんの（Vサイン）。

辻 その人たちにも給料払つてるの？

エリイ 一応払つてるんだけど、でも来月から払えないかもしれない。どうしようね…。

辻 Chim↑Pomって株式会社なの？

エリイ 違う。組合。漁業組合みたいな。場所は高円寺の今ちょうど個展をやつてゐるギャラリーと、あと青山にもあるんだけど。そこは、ミッドタウンで卯城くんと「お金とアート」というトークイベントをしたときに、「六本木のお金持ちの人は家を余らせているんだつたらアーティストに開放するべき」というようなことを言つたら、スイス銀行に勤める外国人が、「僕が買った家が空いてるから、アートレジデンスにしたい」と申し出つてくれて、そこをメンバーと改築して、海外からアーティストが来たときはそこに泊まる。みたいにしてる。

辻 すごいね。やっぱ、アートのパトロンってすごいね。Chim↑Pomにはパトロンとかいるの？

エリイ いない。応援してくれる人は海外問わずたくさんいるけどね。

辻 作品がないもんね。

エリイ いや、それは関係ないと思う。行為が大事だし。やっぱり、海外のギャラリーもついてないからつけたい。でも縁なんだよね。有名ギャラリーだからってどこでも入ればいいわけじゃなくて、愛がないとね。私たち、ほら、繊細じゃん（笑）？

辻 よくわからないけど（笑）。でも、これだけ世界に出ていてアメリカに行ったり来たりしてたじゃない。いつ連絡しても世界のどこかにいる感じなのに、それでもギャラリーつかないんだ。やっぱりChim↑Pomって名前が悪いのかな。

エリイ いや、名前じゃないと思うんだよね（笑）。

辻 今の冗談だよ（笑）。ギャラリー側からしたら売りづらいのかな？

エリイ うーん、さっきも言ったように本当に縁だと思う。でも全ては最高のタイミングでやってくるからね。世界に出てるけど、まだそれは点でしかないのかもしれない。でもだんだんそれが繋がっていって立体的になり世界に根ざしていくんだ。作品を売りたいとか、ギャラリーじゃなくてもいいという感覚は私にはある。

辻 美術館とかの一角とかで何かできたらいいよね。

エリイ そう、逆に美術館にはめっちゃ呼んでもらってる。有り難いことに多すぎて、行けずに作品と指示書だけ送

ることも多いよ。新規の作品を作る時は行くけどね。9月は台湾ビエンナーレと、ダラスで個展。その後はドイツも行く。あ、そのもっと前にアメリカのどこだったかな、巡回展にも呼ばれてる。そういえばフランスの美術館にも呼ばれてたんだけど、作品送るだけになっちゃった。パリと一緒に飲みたかったね！ Chim↑Pomは人数が多いから旅費が大変で。例えば、こないだはメキシコに作品を作りにいったんだけどそれは自発的に自分たちが作品を作りたいから行ったわけで。旅費も滞在費も全て自分たちで貯めたお金を使って、無くなっちゃった（笑）。海外の展覧会の旅費の事でいうと、結成10周年の時にそれまで美術館や機関などに制限されてきてしまったいくつかの事について、私たちがアートに対して申し訳ない事をしてしまったという展覧会を東京で発表したら、その発表したことに対してある機関に超切れられて。それ以来、その機関を通した助成金がおりなくなった。でもね、今の時代、制限されてそれでなあなあに忖度したりしたら、まじ、アートなめられるし。そこをうまくやってる人って日本では超売れてるかもしれないけど、世界では絶対に無理。アートってアティチュードがまじで大事だから、それがちょっとでもブレるってことは、まじ、「死」を意味することなわけ。日本って企業に出てる人が偉いし、テレビに出てる人が偉いんだけど、そんなのアートの世界では関係ないから。



辻 そういうことを含めて、エリイにとってアートとは何なんだろう？どこまでがアートなの？つまり、アートの範囲。アートってさ、昔の文学に近いなって思う。文学のクリティック、タブーといわれるものに果敢に挑んでいたのが文学だったと思うわけ。今は文学をそこまでやってる人たちはあまりいないけど、昭和の頃っていろんな問題に文学が立ち向かってた。オブラートに包んだり迂回しながら、言いたいことの核心を突くという技法でね。どういうところがエリイが考える今のアートなんだろう。直接的に表現して、何もかもが「アートです」って言われると、僕なんかはちょっと陳腐だなって思うこともあるわけ。

エリイ 人によって違うんじゃないかな。手法も全然違うし、絵なのか映像なのかとか、行為なのか。オブラートに包むことが全ていいことだとは思わないし、包まないことがいいことだとも思わない。その物事が何が一番いいことなのかっていうのが最終地点で、その結果に対して巻き戻していくわけだから、何を一番いい状態で見せれるのかっていうのが一番重要で、それは直接的かもしれないし、間接的かもしれない。なんか、料理のレシピと似てるかもしれない。完成形の写真があって、それにたどり着くにはどこでどうしていくのかな？みたいなことをやってる気がする。

辻 面白いね。ただ、「ぼかす」っていうのはね、そこから次の言葉や発想に続けられたりもする。ある事柄をどういう風にどんな言葉で伝えるか、そこで、その先を提示できる手法だと思う。もしかしてこういうことが言いたいのかな？と受けとる側の脳を働かせる力もある。気づかせることが作家の仕事だったりするのかなって思う。

エリイ でもねえ、Chim↑Pomは全て完璧な形でだしてるよ。一つの作品を作るじゃん、それは全てChim↑Pomが作るほかの作品と繋がってて、後に出す作品によって前の作品の意味も変化したりするのがすごく面白いな。全部見てほしい！

辻 その100%の自信がすごいな（笑）。いつもそうだよね（笑）。最後に、今、目指しているものとかあるのかな？ ずっと311に関わってきたり、「消えゆくものの哀れ」みたいなのが前面にあったと思うんだけど、これから展開はもう考えているのかな？ 次はどうする？ とか。発想にスランプとかはないの？

エリイ スランプとかないね。私たち六人いるから、いつも誰かが元気でしょ。それ超大事だよ。一人だったら、100%落ち込んだら100%落ち込まなきゃならないけど、六人いれば誰かが50%元気で、誰かが100%元気だったら、80%くらいにはなるじゃん。

辻 エリイは世界のアートだね。

エリイ 私、いつもそう思ってるんだけどね。あのねえ、他のアーティストにも会ってみて欲しい、エリイがいかにすごいアーティストかってことをわかるために。

辻 （笑）。はいはいはい。OK。それくらいじゃないとダメだよね。エリイは負けないもんね。

エリイ いや、負ける負けないじゃないもん。自分の中での勝ち負けはあるとしてもね。

辻 ほんと楽しそうだよね。

エリイ すごい楽しい。まじ、たまに起きると感謝する。こんな楽しい人生をありがとうって（笑）。辻さん、私になったと思ってみて。やばいから！

辻 この良さが、映画のカメラ回ると全然出ないんだよねー。残念すぎるよ（笑）。



posted by 辻 仁成

46

-
- ・海外で働きながら留学したいあなたへ。ここに夢を叶えるための入口があります。
 - ・ワーキングホリデーの仕組み「パンケーキで伝えるワーキングホリデー」
 - ・文化を創る建築家 佐野文彦 「おもしろき こともなき建築を おもしろく」



PANORAMA STORIES

JINSEI STORIES

WORLD FOOD STORIES

THE INTERVIEWS

OTHER STORIES

WRITERS



Web Magazine "Design Stories"に掲載されている記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright DESIGN STORIES INC. All Rights Reserved.